

# 将来の多様性をみすえて

## 〈八戸市美術館〉のトイレがすごい！



青森県内に、ジェンダーレスを意識したトイレがあることをご存知ですか？ それは〈八戸市美術館〉のトイレです。「意識した」とはどのようなことなのでしょうか？ さっそく、中を調査してみたいと思います！

すべて個室のトイレ！  
だけど……？

入り口に特段変わったところはありません。入り口は男女に分けられていますし、トイレの真ん中は大きな鏡で仕切られており、一般的な男女別のトイレのようには見えません。今のところ一般的なトイレと大きく異なる点は、全てのトイレが個室だということです。



▲通路を直進すると右側に男女別に分けられたトイレの入り口があります

個室内には便器だけではなく、鏡と手洗い場も設置されています。お化粧直しもできますし、個室ですべてが完結できるのは非常に便利です。すべてのトイレが個室—ですので、なんと、男子トイレの小便器も個室仕様！ 洋式トイレの個室と同じように、鏡と手洗い場、さらには、一般的には女子トイレでしか見られない汚物入れも同様に設置されています。実は、設置されている鏡も個室ごとに異なり、個室を選ぶちよつとした楽しみにもなっています。



▲洋式トイレの個室



▼小便器の個室

やはり、すべてが個室になっているだけで、一見普通のトイレのように見えますが、こちらのどこがジェンダーレストイレになるのでしょうか？



### 秘密は仕切りにあった！ 大きな鏡の秘密

〈八戸市美術館〉のトイレの秘密は、真ん中で男女別に分ける大きな鏡にありました。実はこの鏡、動くのです！



◀真ん中の鏡と、鏡に映り込む筆者

の役割をになつていくからです。つまり、バックグラウンドの違いに関係なく、多種多様な人たちに〈八戸市美術館〉を利用してもらいたい！ そんな思いがあるのです。

そこで、設計者らの提案で、海外では普及が始まっている多様な「性」を受け入れるジェンダーレストイレの導入を決めていきました。しかし、八戸だけではなく日本全国でもジェンダーレストイレの知名度や認知度は低く、市民から反発の声が上がってしまうことは想像に難くありません。そういった背景もあり、現在は真ん中に動く鏡を設置することで、男女別のトイレとして利用されています。今後、市民からジェンダーレストイレを要望する声があがった際には、すぐに対

応できるようにしていきたいとのことでした。

将来的なジェンダーレストイレを見越した動く鏡ですが、参加者の性別が偏りそうなイベントでは、臨機応変に男女のトイレ数を調整することもでき、なんと便利なつくりになっていますね。

ちなみに、トイレの扉の色はすべて黄色。これも「男は青、女は赤」といった固定概念からの脱却を目指し、すべて同じ色に統一されました。

このようなトイレは全国的にも珍しく、団体客のツアーや建築ツアーなどでトイレの紹介をすると、感銘を受ける利用者も多いのだそう。2023年3月には3人制バスケットボール「3×3」のプロチーム「八戸ダイム」のエキシビジョンマッチが〈八戸市美術館〉で開催されましたが、全国で活躍する出場選手からも、「このようなトイレは東京でも見たことがない！」と大絶賛だったそうです。

性的話題は非常に難しく、時として白熱した議論になっている状況もしばしば見られます。多様な性について、知識を深めることももちろん大切ですが、一番重要なのは、今目の前にいる人のことを、「受け入れる」ということなのかもしれません。

〈八戸市美術館〉は「出会いと学びのアートファーム」。様々な背景を持つ人たち同士で学びあい、これからの八戸をより良いまちにしていくための「土台」となるような場所。自分と他者との違いを非難するのではなく、違いは違いとして捉え、学びにしていくことができれば、より豊かな社会にしていくのかもしれないね。

（取材…小田桐 咲）



◀1階トイレ平面図

### トランスジェンダーの人が トイレで感じるストレス

2018年にTOTOが行なった調査によると、外出先トイレのストレスで最も多いのが「トイレに入る際の周囲の視線」で31.1%、次に「トイレに入る際の周囲からの注意や指摘」23.5%、「男女別のトイレしかなく選択に困ること」21.4%と続いています。

トランスジェンダーの人は、シスジェンダーの人に比べ、男女共用トイレや多機能トイレを利用する人が多いようです。しかし、多機能トイレを利用する際は、車いす使用者やベビーカー利用者が並んでいるなど、気まづい思いをしている人も34.6%と、シスジェンダーに比べて多い割合でした。

トランスジェンダー：心の性と生まれ持った身体的な性が一致しない人のこと  
シスジェンダー：心の性と生まれ持った身体的な性が一致している人のこと